

「100年先の森林づくり」発表会を開催

【岐阜署】11月16日、下呂市内で「100年先の森林づくり発表会」を開催しました。

この発表会は岐阜県が100年先の森林づくりに取り組み始めたことを契機に、地域の人たちへ森林・林業を普及啓発する目的で企画したもので、国、県、市の共催で開催するのは岐阜県で初めての取組です。

発表者は市内の小学生から専門家まで、それぞれの視点で森林・林業に関わる取組を発表しました。小学生は楽器などを使って元気良く学習内容を発表し、農林高校生はスイスのフォレスターから学んだ育成木施業や演習林の木で家を建てる取組などを発表しました。

森林組合は森林施業プランナーの役割、観光団体は国有林(御嶽山麓)の滝めぐり、県の水産研究所は川魚の生息に森林は欠かせない存在であることを紹介しました。国、県、市の行政機関からはそれぞれ最も力を入れている取組を紹介し、最後は特別講演として林材ライターの赤堀楠雄さんから今後の林業や木材生産の目指す方向性について提言をいただきました。

開催にあたり新聞、市広報、HP、ケーブルテレビに出演するなどして参加を呼びかけ、会場の定員130人を上回る157人の方にご来場いただきました。また、発表会の様子はNHK、新聞、ケーブルテレビで紹介され、より多くの人たちに広報できたことは成果があったと考えています。今回の発表会の反省を踏まえ、今後も積極的に国民に森林・林業をわかりやすく紹介する取組を進めます。



100年先の森林づくり発表会の様子

ケーススタディ地区勉強会を開催

【岐阜署】11月17日、ケーススタディ(※)地区の七宗町上麻生地区森林共同施業団地において、林業の成長産業化に向けた関係機関合同の勉強会を開催しました。

全国の林業・木材分野に知見のある林材ライターの赤堀楠雄さんを講師に招き、「林業におけるブランド化とは」と題して講演及び意見交換を行いました。赤堀さんからは公益的機能を重視した森林整備で良い山を造るだけでは良い木はできない。間伐材だから地域材だからで売り込むのではなく、商品で評価されるモノづくりを行うべき。住宅は生涯に何回も建てない。家を建てることで木の良さを知ってもらい、消費者の木への関心を高めること。需要拡大から消費機会拡大につなげる取組が大切だと講演されました。

その後はケーススタディ地区内のシカ対策試験地について森林技術・支援センターの三村森林技術普及専門官から説明を受け、森林共同施業団地(現地)へ移動して、民国連携で開設した林業専用道、協調出荷土場、民・国有林の間伐事業地を見ながら意見交換を行いました。

勉強会は民有林と国有林の連携強化、木材生産に関する職員の意識向上につながったほか、国有林だけでなく民有林へも事例研究の実施を呼びかけました。引き続きケーススタディ地区の取組を推進していきます。

※ 国の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するための事例研究



ケーススタディ地区勉強会

日独林業シンポジウム2017特別セミナー

「獣害対策担い手分科会」開催

【岐阜署】11月9日、日独林業シンポジウム2017の特別セミナーとして、「獣害対策担い手分科会」が、岐阜県立森林文化アカデミーにて80名が参加し開催されました。

この分科会は、ニホンジカ等による獣害被害が拡大し森林生態系への影響が懸念される岐阜県において、フォレスターの必須科目として狩猟教育が位置づけられているドイツの現状を参考に、誰が獣害対策を担うのか、また、その人材の育成のあり方等について考えることを目的に開催されました。

最初に、ドイツロッテンブルク林業大学のワーゲラー教授が「ドイツにおける狩猟」と題し森林獣害対策の現状と課題・狩猟教育について講演され、ドイツも日本と同様にシカは増加傾向にあり、トウヒやモミ等に食害が発生し、対策として植栽した苗木にプラスチック製の筒を被せたり柵を設置するなど日本と同じような対応をしているとの報告がありました。



ドイツロッテンブルク林業大学ワーゲラー教授の講演

つづいて、兵庫県立大学の横山教授が「獣害対策の現状と課題・求められる人材について」と題し講演され、ニホンジカによる深刻な農林業被害に対し、地域における人材育成に重点を置き、一般住民、行政担当者、狩猟者等様々な人を対象とした研修会を開催し、地域住民が主体となった獣害対策に取り組んでいるとの説明がありました。

講演の後は、獣害対策の担い手育成について、岐阜大学の鈴木教授をコーディネーターにワーゲラー教授ほか4名のパネリストによるパネルディスカッションが行われ、当署から松嶋総括地域林政調整官がパネリストとして参加し、狩猟免許取得後の技術的フォローが無いことや狩猟技術を学べる教育機関が整っていないことなどの課題をあげ、国有林を狩猟教育の研修フィールドとして活用することを提言しました。



パネルディスカッションで発言する松嶋総括地域林政調整官

パネルディスカッション終了後、主催者から国有林が進める捕獲事業や安全な捕獲技術など多様な視点からの議論となり奥行きのあるシンポジウムとなったと感謝の言葉をいただきました。今後も獣害対策等を通じ地域と連携した取組を推進していきたいと考えています。